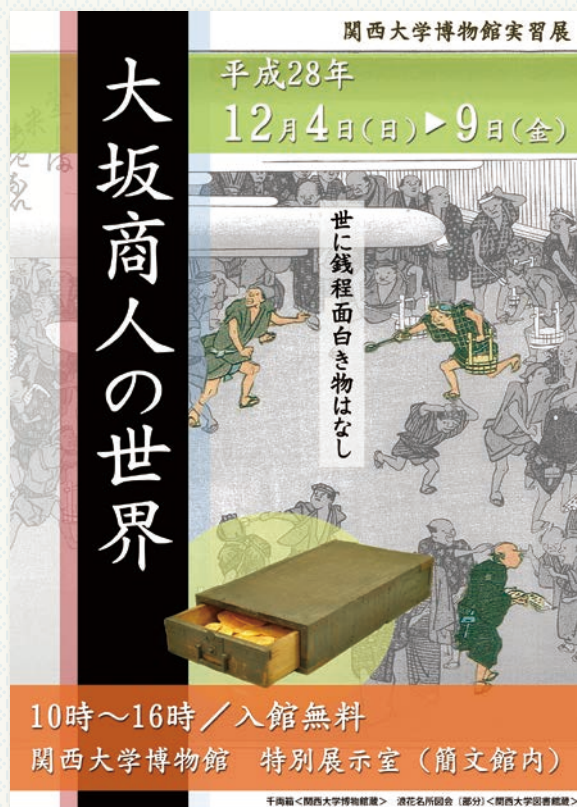


平成
28年度

関西大学博物館実習展



12月4日(日)～12月9日(金)

開館時間：10時～16時

関西大学博物館特別展示室(簡文館内)

入館料
無料

関西大学博物館 関西大学千里山キャンパス 阪急千里線「関大前」駅下車 徒歩10分

〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35 TEL：06-6368-1171 E-mail：hakubutsukan@ml.kandai.jp

平成
28年度

関西大学博物館実習展

12月4日(日)～12月9日(金)
開館時間：10時～16時／入館料無料
関西大学博物館特別展示室（簡文館内）



大坂商人の世界

「世に銭程面白き物はなし」。これは、井原西鶴の代表作『日本永代蔵』の一節です。彼は町人物（ちょうにんもの）と呼ばれる町人の生活の実態を描いた浮世草子を多数残しましたが、その中には当時の大坂を舞台とするものが数多くみられます。

江戸時代、大坂は海上交通の発達によって、日本最大の港町へと成長します。その中で全国各地から集められたモノの取引が盛んに行われ、商業が目覚ましく発展していきます。

本展では、大坂の都市文化と商人の精神文化をキーワードに、江戸時代の大坂商人の世界について展示・紹介をいたします。天下の台所と呼ばれた大坂に生きた商人たちの息づかいを感じていただけると幸いです。



お金の姿

“お金”、それは、この世のあらゆる商品の価値尺度として社会に流通しています。「猫に小判」「早起きは三文の徳」…物やサービスに還元され、時に貯蓄が良しとされ、時にはそれ自体が富の象徴となってきた“お金”の真の姿とはどこにあるのでしょうか。

この展示では、過去から現在まで時代を追って、いつも平然とそこに登場してきた“お金”の変容を紹介致します。“お金”は時代とともに独自の形を成し、あらゆる人物によって使われ、様々な物と交換されてきました。我々が唯一無二の存在として信用する“お金”の姿を、改めて見つめ直してみたいかがでしょうか。



明治の装い

関西大学は今年で創立130周年を迎えました。その当時の日本は明治時代で、鹿鳴館の開館にみられるように国家規模で西欧化を進めていました。装いにおいても同じで、制度として軍服や礼服などの洋装が普及しました。しかし一方で、日常生活においては多くの人が和装でした。

今回の展示では、関西大学が創立された明治時代を中心とする、大礼服などの服装資料や手引書、錦絵、すごろくといったものから、当時の人々の装いをご覧ください。

明治時代とは、西欧化によってめまぐるしく変化した時代です。和と洋が入り混じることで作られた「明治の装い」の独特な世界をのぞいてみませんか？



上方の粹もの展 ～多様性が育んだ美～

古今東西、絵師たちは動物を慈しみ、描き残してきました。特に我が国の近世における動物画は、今日大きな注目を浴びています。その理由の一つとして「多様性」という言葉を挙げることができるでしょう。写生による緻密な絵から思わず笑ってしまうゆるい絵まで、多くの様式がこの時代に集中していました。

本展では、京都と大坂の二都における動物画を展望することで、近世、そしてそれから先の近代の上方が、いかに彩り豊かな文化を創り上げてきたのかを再発見します。粹な動物たちの世界に、一步踏み込んでみませんか？

関西大学博物館

関西大学千里山キャンパス 簡文館内
〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35 TEL：06-6368-1171
<http://www.kansai-u.ac.jp/Museum/>
E-mail：hakubutsukan@ml.kandai.jp

■アクセス 関西大学千里山キャンパス 阪急千里線「関大前」駅下車 徒歩10分

